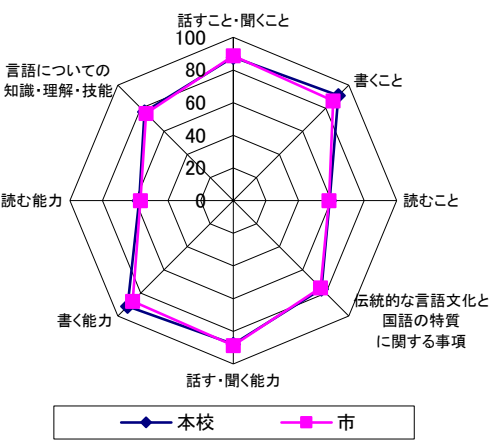


宇都宮市立一条中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	87.9	88.7	89.1
	書くこと	90.9	86.4	64.2
	読むこと	58.9	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.4	75.5	72.0
観点別				
	話す・聞く能力	87.9	88.7	89.1
	書く能力	91.5	87.1	66.7
	読む能力	57.6	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	76.8	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

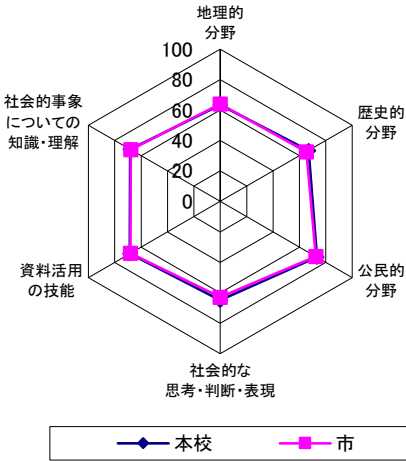
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均に若干届かないものの、平均正答率は8割を上回っている。 ○特に、根拠を明確にして自分の意見を話す設問においては、97.5%という高い正答率が見られた。 ●司会者が行っていた「話し合いの進め方の工夫」を捉える設問においては正答率が7割に届かず、市の平均正答率を大きく下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業で行う小グループでの話し合い活動では、司会や記録、発表などの役割分担を最初に決めている。この形態の場合、小グループで話し合われたことを学級全体に伝わるよう発表するため、発表の力は鍛えられる。しかし、小グループでの話し合いの様子は公開されないため、司会がどのように話し合い活動を進めたかははっきり分からない。そのため司会の力を育成することができない。今後は、司会を育てる話し合い活動の工夫を図りたい。
書くこと	平均正答率は昨年度に引き続き4領域で最も高く、9割を超えている。また、市の平均正答率を4.5ポイント上回っている。 ○特に自分の考えを明確に書いたりその理由を述べたりする力に優れている。これは「話すこと・聞くこと」の領域で「根拠を明確にして自分の意見を話す」力に通じる。	・「話すこと」でも「書くこと」でも、簡単に自分の立場を選択できる課題であれば、意見やその根拠を述べることは本校の生徒にとって容易である。これからはさらに、提示された事実や意見を正しく読み取りそこから推論する能力、自分の考えを相手に伝わるように効果的に述べる力を育成したい。さらに語彙力や文章の構成力なども必要になるため、すぐれた文章に積極的に触れさせるよう心掛ける。
読むこと	市の平均正答率を若干上回っているものの、平均正答率は6割に届かず、課題が見られる。 ●文学的文章でも説明的文章でも、特に抽象的な表現や事柄を扱った文章に苦手意識を持つ傾向が見られる。説明文の場合、具体的な例を示されれば理解できても、抽象的な言葉でまとめられると理解が追いつかない。	・本調査で出題された文章が特に難解なわけではない。文学的文章については昨年度話題となり本校の図書館にも収蔵されている「蜜蜂と遠雷」が取り上げられており、読書に親しんでいる生徒にとっては容易とさえ言える。ただ、「学習と生活についてのアンケート」の調査結果に見られた通り、本校生徒の読書への取り組みは昨年以上に低調である。読書を促す直接的な指導を国語科の授業だけでなく学校全体で取り組んでいくよう働きかける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を若干上回っているものの、平均正答率は8割を下回り、課題が見られる。 ○漢字の読み書きに関しては平均正答率が9割弱と、その力はおおよそ定着しているといえる。 ●「用言の活用」についての問題では、平均正答率は48.2%で市を下回っている。 ●古典では、特に心情を捉える問題に課題が見られる。	・漢字の読み書きについては、今後も漢字練習の宿題とそれに対応した漢字テストの実施を継続して行う。 ・1・2学年時に学習する文法については、3学年の2学期に復習する機会を設ける。 ・古典の学習では、古文の正しい理解に加え当時の人々の物の考え方や感じ方にも触れ、様々な文章を理解する手助けとする。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.4	64.0	50.9
	歴史的分野	66.9	65.3	57.1
	公民的分野	73.3	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.9	62.9	52.3
	資料活用技能	68.6	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	68.4	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

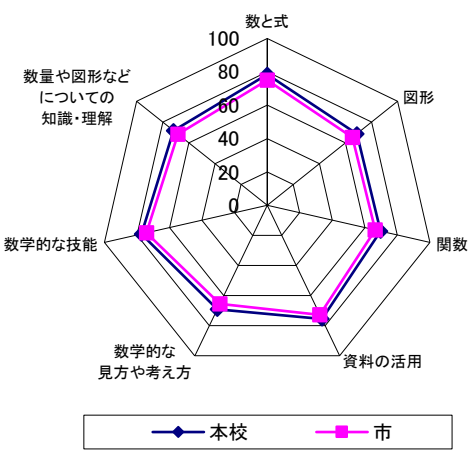
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○内容別正答率では日本の姿の正答率が市の平均をやや上回っている。特に、資料から日本の位置を把握する問題は市の平均を3.1ポイント上回っている。 ●地理的分野の領域別正答率は市の平均とほぼ同じであるが、歴史的分野、公民的分野が市の平均を上回っているのに対して唯一平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・主題図やグラフから必要な情報を読み取る学習活動を授業で重点的に取り入れる。 ・グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、多様な視点から社会的事象に気づかせる。
歴史的分野	○歴史的分野の領域別正答率は市の平均より高く、1.6ポイント上回っている。特に、古代までの日本の正答率がきわめて高く、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ●内容別正答率では、中世の日本の正答率が市の平均を2.3ポイント下回っている。	・各時代の特徴を理解し、時代ごとの共通点や相違点について比較できるように、単元や分野全体を見通した学習指導を実施する。 ・資料から当時の社会の様子を読み取ることができるように、資料活用を積極的に設ける。
公民的分野	○公民的分野の領域別正答率は市の平均よりやや高く、0.9ポイント上回っている。特に、観点別正答率では社会的な思考・判断・表現の正答率が高く、市の平均を2.0ポイント上回っており、現代社会の仕組みや諸問題について考察する機会が多い公民的分野の力が育まれていると考えられる。 ●内容別正答率ではわたしたちの生活と現代社会の正答率が低く、市の平均を3.0ポイント下回っている。	・現代社会の諸問題を例に、グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、思考の深まりを促すような授業を展開する。 ・政治や経済のしくみについて、仕組み図を用いるだけでなく、具体的な事例を取り上げて学習指導を実施する。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	78.5	75.0	70.3
	図形	68.8	65.2	63.4
	関数	69.7	66.4	51.5
	資料の活用	75.5	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	69.0	65.5	55.1
	数学的な技能	77.3	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	71.7	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

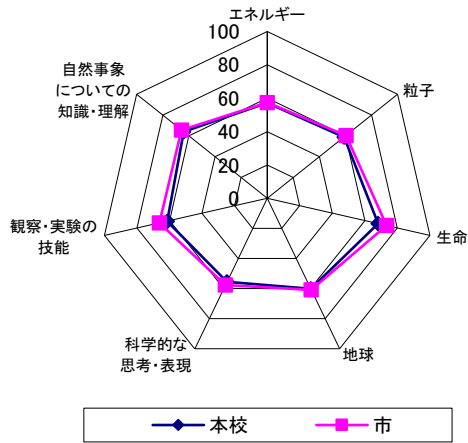
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域別正答率は市の平均を3.5ポイント上回っている。特に「乗法公式を使って因数分解をする問題」の正答率は95.0%で、市の平均を6.9ポイント上回っている。 ●「分母を有理化し、根号を含む式の減法」では正答率が市の平均を1.4ポイント下回っている。	・分母の有理化や根号の中の数を最小にする処理について反復練習を行い、根号を含む式の加法・減法について十分な計算力を身につけさせる。
図形	○領域別正答率は市の平均を3.6ポイント上回っている。特に「三角形を90°回転移動させたときの図形がわかる問題」の正答率は84.9%で、市の平均を5.8ポイント上回っている。6問すべての問題において、市の平均を上回っている。	・証明に必要な情報と不必要な情報を整理しながら証明問題を振り返り、証明の構成に必要な要素を正しく理解する力の育成に今後も引き続き取り組んでいく。
関数	○領域別正答率は市の平均を3.3ポイント上回っている。特に「比例の関係にあるxとyの表を読み取り、yをxの式で表す問題」の正答率は92.8%で、市の平均を6.1ポイント上回っている。6問すべての問題において、市の平均を上回っている。	・多様な問題に対応できるよう今後も傾き、切片、変化の割合等の用語や式・表・グラフを対応させながら丁寧に授業を行う。
資料の活用	○領域別正答率は市の平均を2.7ポイント上回っている。特に「度数分布表から、階級の相対度数を求める問題」の正答率は81.3%で、市の平均を8.8ポイント上回っている。 ●「2つのさいこをを投げるときの確率を求める問題」では正答率が市の平均を10.7ポイント下回っている。	・様々な事象について反復練習を行い、確率の意味や用語等の再確認をしながら授業を行う。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.2	57.5	51.6
	粒子	58.9	60.3	53.0
	生命	68.2	73.4	67.9
	地球	60.1	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	55.6	57.7	51.5
	観察・実験の技能	61.4	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	64.1	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

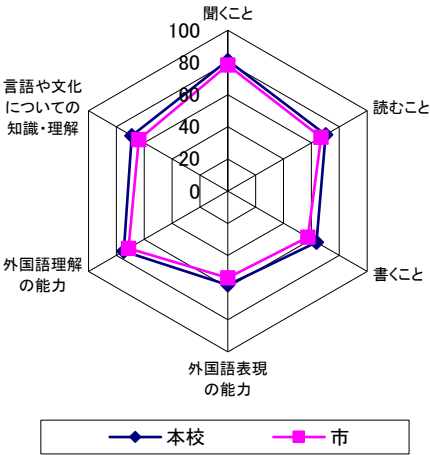
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	領域全体としては、ほぼ市の平均と同等である。 ○並列回路の電流の大きさを問う問題では、市の平均を8.0ポイント上回っている。 ●電熱線の発熱量を問う問題では、市の平均を6.1ポイント下回っている。	・公式を用いて計算する問題で正答率が低いことから、基本的な問題から発展的な問題を数多く練習させ、公式等の使い方を身に付けさせる。
粒子	○質量パーセント濃度を求める式を考える問題では、市の平均を7.9ポイント上回っている。 ●水の電気分解で、水に加える物質を問う問題では、市の平均を7.4ポイント下回っている。また、電気分解以外での水素の発生方法を問う問題では、市の平均を6.1ポイント下回っている。 ●ろ過のようすを粒子モデルで表した問題では、市の平均を6.0ポイント下回っている。	・水の電気分解に関する理解が不足していると考えられるので、実験方法の理解とともに、結果から考察にいたる過程を重視し、理解させる。 ・物質を粒子という考え方で見たときのイメージがつかめていないと考えられるので、原子のモデルを用いて丁寧に指導していくことで、粒子の考え方のしっかりしたイメージを身に付けさせる。
生命	○脊椎動物の分類では、市の平均を2.8ポイント上回っている。 ●領域全体として、市の平均を4.8ポイント下回っている。特に、遺伝子の規則性と遺伝子に関する問題では、市の平均を5～10ポイント程度下回っている。	・遺伝に関する内容の理解が不十分と考えられるので、遺伝子や遺伝のしくみについて、基本的な知識をくり返し指導することで確実に身に付けさせ、その知識をもとに遺伝の規則性について考えられるような思考力を身に付けさせる。
地球	領域全体としては、ほぼ市の平均と同等である。 ○火山の噴出物についての問題では、市の平均を3.7ポイント上回っている。また、火山岩のでき方についての問題では、市の平均を4.3ポイント上回っている。 ●部屋の温度と湿度の関係を説明する問題では、市の平均を8ポイント下回っている。	・湿度に関する理解が不足していると考えられるので、飽和水蒸気量とは何かを実験やグラフを活用し十分に理解させ、その飽和水蒸気量と湿度との関係、湿度の計算方法などを、練習問題を通して身に付けさせる。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	81.3	78.4	72.9
	読むこと	70.2	66.9	63.2
	書くこと	63.7	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	58.4	54.0	51.1
	外国語理解の能力	74.7	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	69.0	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の平均正答率は市の平均を3ポイント上回り、8割を越えている。 ○リスニングの内容理解を得意とする生徒が多く、正答率もほぼ9割に達している。 ●全体的に見ると良くできているが、対話文の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題は正答率が低かった。	・絵に合ったものを選ぶ聞き取りは容易であるようだが、それ以外の問題では必要な情報をメモするように指導していく。 ・ペア活動やグループ活動を通して、対話活動を授業で多く取り入れていく。
読むこと	○本校の平均正答率は市の平均を3.3ポイント上回っている。 ●ブログの要点を把握したり、道案内の対話を読み取ろうとする意欲が見られるが、やや長い文の内容の要点を答える問題の正答率が他より低かった。	・英語の質問に単語でなく文で答える力を身に付けさせたい。 ・長文の内容の読み取りを苦手とする傾向が見られるので、短時間で効率よく読めるように、興味のある内容の文を読んだり、友達が書いた作文を読んだり、日頃からまとまった文章を読むことに慣れさせたい。
書くこと	○本校の平均正答率は市の平均を約6ポイント上回っている。 ○自分の好きなことについて3文以上のまとまった内容で書こうとする意欲が見られる。 ●場面に応じて英文を書く問題の正答率が低かった。	・様々な場面に合った自然な英文を書けるよう、補助教材などの自由英作文を個別に丁寧に指導していく必要がある。 ・スピーチやエッセイなどを書く練習をこれからも定期的に行っていく。

宇都宮市立一条中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○効果的な授業の振り返りを行い、家庭学習への意欲を高めさせる。	○「まとめ・振り返り」を意識した授業づくりを行う。	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の質問に対する肯定割合は、53.1%(3年生)、61.4%(2年生)、54.3%(1年生)と低い。家庭学習への意欲をより高めさせるために、効果的な授業の振り返りを更に推進していく必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○「社会のできごとに関心があり、新聞やテレビから情報を得ている。」の質問に対する肯定割合は、87.8%(3年生)、80.4%(2年生)、82.3%(1年生)と高い。しかし、「本や新聞を読んでいる。」の質問に対する肯定割合は、40.1%(3年生)、60.1%(2年生)、54.9%(1年生)と高くはない。N I Eへの取り組みを推進し、新聞を身近な情報源の一つとして活用する意識を高めさせたい。各教科および領域の授業において、新聞記事を教材の一部に活用する試みを意識的に行う。